

指導のポイント

監修：白梅学園大学大学院／無藤 隆

執筆：共立女子大学／白川佳子(ねらい)

東京家政学院大学／和田美香(導入・展開の言葉かけ)

國學院大學／吉永安里(小学校へのつながり)



『キンダーまなびきっず』は、5歳の時期にふさわしい「考える力」が育つことを目指し、「ことば・かず・くふう」の3つの柱で、子どもたちが楽しく考えることができるようなページ構成になっています。子どもが日ごろの遊びや日常生活の体験をイメージし、自然に無理なく、楽しい気持ちで取り組めるように、「ねらい」「導入・展開の言葉かけ」「小学校へのつながり」のポイントを本書では紹介しています。保育の中で子どもたちと取り組む際に、ぜひご活用ください。

ことば(言葉・文字)

言葉のつかい方や文字の書き方、漢字の成り立ちについて楽しく学びます。

ことば P.4~5 濁音・半濁音

ねらい 似ている言葉が、濁点や半濁点によって違う言葉になることを楽しみながら、濁音と半濁音を学びます。

導入の言葉かけのヒント

「[ぶた]と[ふた]は同じかな。似ているけれど違うかな」と問いかけ、その後、絵と字を見比べて「字は似ているけれど、全然違うものだよ」と確認します。

展開の言葉かけのヒント

「[ぶた]と[ふた]の字は似ているね。でも、どこが違うかな」と濁点に気づくように言葉をかけ、「点々(・)は、大事な役目を果たしているんだね。なくなったら違う意味になってしまうね」と確認します。友だちの名前や絵本の題名などで、濁点や半濁点を見つけてみるのも楽しいでしょう。

● 小学校へのつながり

濁点・半濁点がついたときに起こる、音や意味の変化をたくさん楽しんでください。その経験が、どの文字に濁点・半濁点がつくのかを正確に理解する小学校の学習につながります。



ことば P.6~7 長音・促音

ねらい 似ている言葉でも、長音と促音の有無によって異なる言葉になることを楽しみながら、長音と促音を学びます。

導入の言葉かけのヒント

「おばあさん」「おばさん」の両方を耳で聞いて、どこが違うか当てっこクイズをします。その後文字を見ながら「ば(あ)って伸ばすと、意味が変わるよ」と確認します。

展開の言葉かけのヒント

文字を見ながら発音し、「小さい「っ」が入ると、跳ねている感じだね。言葉がスキップしているのかな。伸ばす音が入ると、ゆっくり、のんびりした感じだね。大股で歩いているみたいだね」と、長音と促音を発音して、言葉のもつリズムやイメージを楽しむとよいでしょう。

● 小学校へのつながり

ア行音は「あ」、イ行音は「い」、ウ行音は「う」、エ行音は「え」、オ行音には「う」をつける長音の基本的な規則に気づけるとよいですね。促音はつまる音を一文字として意識できるよう、手拍子などで拍を意識させるとよいでしょう。



ことば P.8~9 拗音・拗長音

ねらい 似ている文字でも、拗音と拗長音の有無によって異なる言葉になることを楽しみながら、拗音と拗長音を学びます。

導入の言葉かけのヒント

「美容院に行こうとしたら、病院に着いちゃったよ。あれ、どこが違うのかな。文字をよく見てみよう」と、ストーリーを作って導入すると、取り組みやすいでしょう。

展開の言葉かけのヒント

お店屋さんごっこや街づくりなどに発展させて、「びょういん」「びょういん」「おもちゃ」「おもちゃや」など実際に看板を書いてみると理解が深まるでしょう。「お客さんが間違えないように、小さい字はちゃんと小さく書いてね」と、大きさの違いを強調するとよいでしょう。

● 小学校へのつながり

拗音には主にヤ行拗音とワ行拗音があり、幼児期には「ゃ」「ゅ」「ょ」のヤ行拗音に親しめるとよいですね。促音は一拍ですが、拗音は前の文字と結合して二文字で一拍になることを感覚的につかめるとよいでしょう。



かず (数量・図形)

思考力や認識力の礎となる、数や図形の基本的な概念について楽しく学びます。

かず P.16~17 大小

ねらい 身近なもの大・中・小の大きさを比較しながら、大きさの概念を学びます。

導入の言葉かけのヒント

大きさがイメージできる手遊びをして、「大きい・小さい・中くらい」を身体で表現してみましょう。「ゾウさんの」「ネズミさんの」と動物にたとえてみてもよいでしょう。

展開の言葉かけのヒント

畑で取れた野菜などで大きさがはっきりしているものは、大きい順に並べてみたり、同じくらい大きさのものを集めてみたりするなど、実際の生活と結びつけて体験していくとよいでしょう。給食などでは「だれの果物が大きいか」などと真剣に考えて、賑やかな時間になるでしょう。

● 小学校へのつながり

小学校1年生の量と測定の学習につながります。ここでは広さと嵩(かさ)に着目して、大きさを直接比べられることに気づけるとよいでしょう。



かず P.18~19 長さ・量

ねらい 身近なもの長さや重さを比較しながら、長さや量の概念を学びます。

導入の言葉かけのヒント

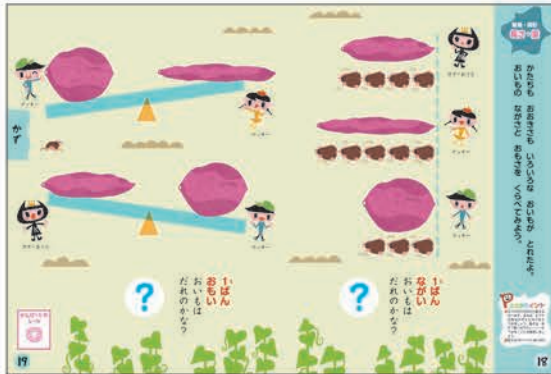
芋掘りの経験がある場合には、「大きなお芋、掘れたかな。小さなお芋、見つけられたかな?」などと体験と結びつけて導入すると、イメージが広がります。

展開の言葉かけのヒント

長さよりも大きさにまどわされてしまい、長短がわかりにくい場合には、「モグラさん何匹かな。かぞえてみよう」と声をかけ、指でいっしょに確認してみるとよいでしょう。

● 小学校へのつながり

大小と同じく量と測定の学習につながります。ここでは重さは直接比較、長さは任意単位(モグラの数)を用いて間接比較をしています。生活の中で、両方の考え方に親しめるようにしましょう。



かず P.24~25 座標

ねらい 上下と左右の2軸を用いて、平面の位置関係を学びます。

導入の言葉かけのヒント

「おいしそうなお菓子だね。○○ちゃんはどれが食べたい?」と興味を促します。「お店屋さんがいそがしそうだから、並べるのを手伝ってあげようね」と導入します。

展開の言葉かけのヒント

右、左、上、下をまず確認してから取り組みます。「下から2番目はどこかな?」「右から1番目は?」とひとつずつ確認します。慣れてきたら、今度は子どもが場所を言うこともできます。少し難しいですが、同じ場所でも言い方が複数あることに気づくと、さらにおもしろさが広がるでしょう。

● 小学校へのつながり

小学校の図形の学習につながります。これまで「まなびきず」で学んできた前後、左右、上下などの言葉をつかって、方向や位置を特定したり表現したりすることに、日常的に親しめるようにしましょう。



くふう (思考・創造)

自ら考え創意工夫する力(思考力・創造力)を養い、小学校での学びの土台を育みます。

くふう P.28~29 図形構成

ねらい ○、△、□の図形がさまざまな形から構成されていることを学びます。

導入の言葉かけのヒント

「丸いピザがバラバラになっちゃった。もとに戻してあげようか」などと、形をお皿やピザなど、身近にあるものと結びつけると取り組みやすいでしょう。

展開の言葉かけのヒント

「形の仲間になれないものが、ひとつあるよ。どれかな?」と問いかけます。わかりにくい場合は、形の上にシールを重ねるようにして確認すると理解しやすいでしょう。さらには折り紙などで実際にいろいろな形に切ったり、組み合わせたりしながら遊ぶと楽しいでしょう。

● 小学校へのつながり

絵とシールを重ね合わせるなど具体的に操作するとよいでしょう。小学校でも低学年では具体的な操作を繰り返しながら、次第に抽象的に操作できるようにしています。



くふう P.30~31 図形展開

ねらい 折り紙の左右対称の切り絵課題を楽しみながら、線対称の基礎に親しみます。

導入の言葉かけのヒント

取り組み前に、実際に折り紙を切って見せてもよいでしょう。思いがけない形が出てくると楽しいものです。「これはどんな形かな?」とたくさん遊んでみましょう。

展開の言葉かけのヒント

学習した後、実際に折り紙で作り、広げた形を画用紙に貼って、何かに見立てて絵を描いてもよいでしょう。三角の部分は鼻をイメージして全体を顔に見立てたり、丸い形から花を描いたりしてもよいでしょう。慣れてくると子ども自身が折り紙を切って、形を作るようになります。

● 小学校へのつながり

線対称の学習につながります。幼児期には抽象的理解を求めるのではなく、実際に紙を切っていろいろな形作りを楽しみながら、体感的に理解できるようにしましょう。



くふう P.32~33 時間経過

ねらい 3枚の絵を時間経過に合わせて順序を並べ替え、物事を順序立てて考える力を養います。

導入の言葉かけのヒント

「ナッキーが「いただきます」と言っているよ。どの絵かな?」と問いかけ、「食べている絵はどれかな」「ごちそうさまはどれかな」と順番に確認してみましょう。

展開の言葉かけのヒント

1, 2, 3の順番が記入できたら、「この順番にお話をしてみよう」と子どもがストーリーを作って語るように誘ってよいでしょう。「○○ちゃんの好きなようにお話を作ってね」の誘いを受けてイメージを広げ、世界でたったひとつのすてきなお話ができるかもしれません。

● 小学校へのつながり

だれが何をしている場面なのかをあらかじめ確認しておく、その場面の始め、中、終わりがスムーズに理解できます。人物、場面設定、時間の順序の理解は、国語の読解力につながります。

